

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協

2024. 3 月
通巻 第 600 号

ニュース

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-15-2 本郷二村ビル 4 階 TEL:03-5684-0011 FAX: 03-5684-0012

本号の主な内容

- 2、3 面 【特集】第 50 回 全国造園デザインコンクール
審査講評 藤井英二郎審査委員長ほか
入選作品 国土交通大臣賞 嶋崎 千恵さんほか
- 4 面 【ふるさと自慢】西蒲区の風土を感じるわらアート祭とからし巻きの魅力
新潟県支部 梨本 正則（石水造園㈱）
- 【緑滴】園芸療法を観光スポットに
富山県支部 西野 美保（西野進樹園㈱）

日造協の広報紙は 600 号を迎えました
読者の皆様、関係各位に感謝申し上げます

第 50 回 全国造園デザインコンクール

文部科学大臣賞 神奈川県立相原高等学校
国土交通大臣賞 嶋崎 千恵 さん(群馬県立藤岡北高校)



受賞者と関係者で記念撮影

日造協は、第 50 回全国造園デザインコンクールの表彰式を 2 月 10 日、東京都千代田区二番町の東京グリーンパレスで開催した。全国造園デザインコンクールは、造園空間のデザインと設計技術の向上を図ることを目的に日造協主催、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会、全国高等学校造園教育研究協議会共催、文部科学省、国土交通省、NHK、全国農業高等学校長協会、（公社）日本造園学会、（公財）都市緑化機構の後援で実施している。

第 50 回全国造園デザインコンクール受賞者

賞 部門	氏 名	学校名	学年
文部科学大臣賞	神奈川県立相原高等学校		
国土交通大臣賞	嶋崎 千恵	群馬県立藤岡北高等学校	2
造園学会賞	岩元 晟洋	長崎大学	2
日造協会賞	坂元 健太	京都府立農芸高等学校	3
CLA 会長賞	横田 将也	明治大学	3
学校長理事賞	植田 太陽	静岡県立天竜高等学校	3
広場プラン賞	櫻井 心捺	神奈川県立相原高等学校	1
50 周年特別賞	杉本 りの	北海道岩見沢農業高等学校	3
入選	赤岩 咲希	群馬県立安中総合学園高等学校	3
入選	森田 真衣	群馬県立安中総合学園高等学校	3
入選	浅川 華香	山梨県立農林高等学校	3
入選	石川 桃湖	山梨県立農林高等学校	3
入選	黒瀬 大悟	山口県立宇部西高等学校	3
入選	酒井 真保	愛知県立愛知総合工科高等学校	3
入選	高橋 柚衣	群馬県立藤岡北高等学校	1
入選	田中 百萌	静岡県立静岡農業高等学校	3
入選	豊田 宗平	三重県立四日市市農芸高等学校	3
入選	前田 めい菜	三重県立四日市市農芸高等学校	3
入選	実習 田村 楓真	埼玉県立秩父農工科学高等学校	3
入選	実習 丹羽 旺暉	香川県立石田高等学校	3
入選	フアン 川野 琳央	神奈川県立相原高等学校	1
入選	フアン 佐藤 恵	静岡県立科学技術高等学校	1
入選	フアン 下山 いろは	静岡県立静岡農業高等学校	2
入選	フアン 高山 珠里	山梨県立農林高等学校	1
入選	住宅 久保 光生	E & G アカデミー	1
入選	住宅 中尾 朋子	E & G アカデミー	1
入選	街区 落合 心之介	前橋工科大学	3
入選	街区 CAI YANNING	長崎大学	1
入選	実習 原 かえで	西日本短期大学	2
佳作	住宅 伊藤 綾	静岡県立静岡農業高等学校	3
佳作	住宅 工藤 葉月	静岡県立科学技術高等学校	1
佳作	住宅 高野 誠大	滋賀県立湖南農業高等学校	3
佳作	住宅 三國 匠	山口県立宇部西高等学校	3
佳作	街区 鶴飼 莉里	三重県立四日市市農芸高等学校	3
佳作	街区 郡司 りょう	三重県立四日市市農芸高等学校	3
佳作	街区 竹内 杏悟	三重県立四日市市農芸高等学校	3
佳作	商業 黒田 すずな	岐阜工業高等専門学校	3
佳作	商業 長井 海音	群馬県立藤岡北高等学校	3
佳作	実習 木下 知歩美	熊本県立熊本農業高等学校	3
佳作	実習 佐藤 優里菜	岩手県立花巻農業高等学校	3
佳作	フアン 稲津 裕仁	滋賀県立湖南農業高等学校	2
佳作	フアン 佐藤 史奈	山梨県立農林高等学校	1
佳作	フアン 高淵 望斗	岡山県立岡山工業高等学校	2
佳作	フアン 坂花 音	神奈川県立相原高等学校	2
佳作	フアン 吉野 瑠知杏	静岡県立静岡農業高等学校	2
佳作	フアン 吉村 陽向	奈良県立御所実業高等学校	2
佳作	フアン 渡邊 颯太	静岡県立静岡農業高等学校	2
佳作	住宅 増子 美希	E & G アカデミー	1
佳作	住宅 宮田 まりえ	E & G アカデミー	1
佳作	街区 新川 翔太郎	九州大学	3
佳作	街区 細川 若菜/大谷 前	大阪公立大学大学院	1
佳作	街区 横田 有香	国立明石工業高等専門学校	4
佳作	商業 大山 ななみ	東京電機大学	3
佳作	商業 増本 唯衣	国立明石工業高等専門学校	4
佳作	実習 斎藤 凌	東京都立大学	4
佳作	実習 宮本 端姫	岐阜県立国際園芸アカデミー	2

樹林

（一社）日本造園建設業協会理事
高須賀緑地建設㈱代表取締役 高須賀 盛満

植物とより親密になって地震予知



四国地方においても南海トラフ地震に対する警戒が強まる中、令和 6 年元日に石川県能登半島で大変大きな地震災害が発生しました。

被災された方々には心よりお見舞い申し上げるとともに、皆様の安全と被災地の日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

大きな地震災害を防ぐためにその前兆現象について、さまざまな科学的根拠があるのですが、我々の扱う植物にも地震の予知的な現象があるのをご存じでしょうか。

植物の異変について古いものでは 1855 年に起きた安政江戸地震では、次のような手記が残されておりました。

梨、桃、スモモの二度咲きが多数見られた、彼岸花、タンポポの二度咲きがあった、梅が花盛りになったなど、開花時期とは大きくずれた、いわゆる狂い咲きが多く見られたという証言が多数残されています。

また、1923 年の関東大震災の際には著名な作家・芥川龍之介が一週間前

に鎌倉にて藤・山吹・菖蒲などの開花を目撃しており、「天変地異の前触れだ」と警告したものの、周囲の人々は誰も信じなかったといったエピソードが回想録につづられています。

近年 1995 年 1 月 17 日に発生した阪神淡路大震災の時には椿が何倍も咲き乱れたり、アサガオが半年前より咲き出し、越冬してもなお咲き続けたといった異変が報告されています。

また、ランの花が自力で微妙に揺れていたとの奇妙な証言も残されており

ます。植物が自身の生育のために微弱な電波をとらえ、水のある方向や邪魔な岩石を察知すること、電氣的な刺激を受けると成長が促進されるといった特徴に注目し、多くの方々が研究を重ねた結果、植物の異変は大地震の前に放出される電磁波によって引き起こされた可能性が極めて高いことも判りました。

我々が手にする木々や草花とより親密になることで危険をいち早く教えてくれるかもしれません。

将来造園の道に進むきっかけとなり、ご活躍していただきたいと、期待を述べた。

次いで、遠藤友治文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付産業教育振興室教科調査官・国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官、湯澤将憲国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長が祝辞を述べた。

表彰式は、8 つの特別賞について、それぞれ、賞状と盾の授与が行われ、審査委員長の藤井英二郎千葉大学名誉教授が全体講評。その後、受賞者発表会では、文部科学大臣賞を受賞した神奈川県立相原高等学校の平塚専一校長をはじめ、各賞の受賞者が取り組みや作品を紹介し、審査員の講評、質疑を行った。

また、記念撮影の後、今回初めての試みとして、表彰式参加者による交流会を開催した。入賞作品が並べられた会場で、受賞者のほか、参加学校の指導教諭、造園に携わる幅広い方々が参加され、作品についての質疑や今後の進路などについて、意見・情報交換が図られ、貴重な交流の機会となった。（2・3 面に特集）



交流会で作品について説明する受賞者

賞状の授与のほか、意見交換や支部と学校の連携を図るなど、当コンクールの趣旨を御理解いただく有意義な機会を持つことが出来ました。

受賞校との意見交換なども実施

全国造園デザインコンクールの特別賞以外の入選者には、2016 年から日造協

支部を通じて賞の授与を行ってきました。今年も、受賞校への訪問を実施し、



埼玉県立秩父農工科学高校



山梨県立農林高校



山口県立宇部西高校



静岡県立静岡農業高校

「日造協の事業活動に関するアンケート」 ご協力のお礼

この度はご多忙の中、「日造協の事業活動に関するアンケート」にご協力いただきましてありがとうございました。アンケートの結果につきましては、3 月 15 日付の日造協メールに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

特集

第50回全国造園デザインコンクール

審査講評 入選作品

■藤井 英二郎 委員長(千葉大学名誉教授)

全国造園デザインコンクールが第50回となりました。半世紀に及んで継続してこられた一般社団法人日本造園建設業協会と高校の先生方のご尽力に敬意を表します。今回の応募数は587点で、過去最多となりました。昨年に比べて大幅に増えたのは緑化フェアで、応募された高校1、2年生と指導された先生方、ありがとうございます。応募者が所属する高校、大学の数も増えていますので、このコンクールが着実に拡大していることがわかります。

高校生、一般・大学生ともに住宅庭園・街区公園・商業施設・実習、そして高校1、2年生の緑化フェアプランのいずれにおいても優れた内容が多く見られました。住宅庭園や街区公園、実習のテーマで感心するのは、社会や環境が直面する課題をしっかりと捉えて設定されていることです。課題は複雑で改善の仕方も様々ですので、テーマを定めて改善方法を空間構成として提案することは容易ではありません。造園デザインコンクールは、実態をイメージしながら知識や情報を総合・集約し、空間として具現化する能力が培われる機会です。さらに多くの高校生、一般・大学生が応募されることを期待しております。

50周年記念特別賞について

「築山殿の庭」は、徳川家康の正室・築山殿に関わる伝承をもとに、その住まいの庭園を構想し設計・施工した実習作品です。大河ドラマ『どうする家康』で描かれた築山殿の人物像や住まいに触発されたとはいえ、その庭が平和な世を築く

話し合いの場であったとされることを踏まえて、いま世界で起こっている戦争が終わり平和になることを祈って作庭されたことは素晴らしいことです。全体の収まりを見ながら、門や垣、石組み、植栽等の設計・施工に熱心に取り組んだ様子が窺え、全国造園デザインコンクールの50周年記念特別賞に相応しい作品です。

■遠藤 友治 委員(文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校担当)付産業教育振興室教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官)

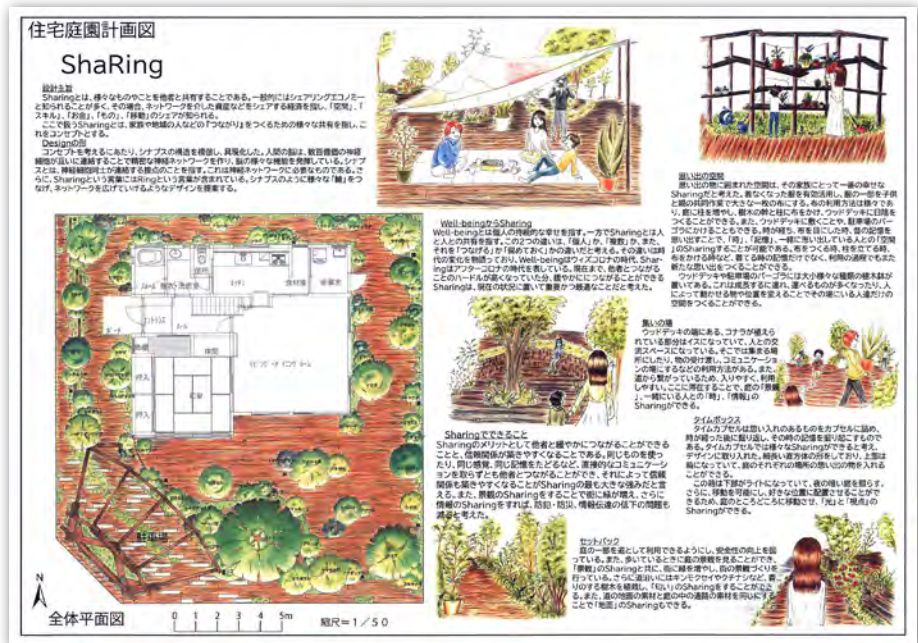
記念すべき、第50回全国造園デザインコンクールには、たくさんの応募をいただきありがとうございます。また、入賞された皆様、誠におめでとうございます。

どの学校の生徒の作品も、日頃の学習の成果や熱意が感じられるものでしたが、今年度の文部科学大臣賞は、その中でも特に充実した作品が多数見られた、神奈川県立相原高等学校が受賞されました。

高い評価を得られた作品は、いずれもコンセプトが明確で、デザイン技術・表現力も素晴らしく、社会性や時代性に富んだものばかりでありました。御指導に当たられている各学校の先生方に対して、改めて敬意を表する次第です。

各学校におかれましては、今後も、教育的視点で学習計画を立てていただきまして、基礎的・基本的な技術に加え、感性や表現力等を一層高めていただきますようお願い申し上げます。

次年度も素晴らしい作品に多数出会えることを、心より御期待申し上げまして、



国土交通大臣賞
嶋崎 千恵 群馬県立藤岡北高等学校

講評とさせていただきます。

■湯澤 将憲 委員(国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長)

50回の節目となった今回も、多くの作品が寄せられましたが、入賞された皆様、おめでとうございます。庭園、公園など様々な空間へのデザイン提案がありましたが、生物多様性、グリーンインフラ、コミュニティ形成、働き方等の社会的課題を、コンセプトや検討過程を明確にし、デザインとして限られた図面の中に的確にかつわかりやすく表現できた作品が高い評価を受けたと思います。

国土交通大臣賞は、住宅庭園部門・高校の部の嶋崎千恵さん(群馬県立藤岡北高等学校)の「ShaRing」が受賞しました。個人住宅でありながら、地域コミュニティへのつながりを考え方として明確にし、空間構成もそれに十分配慮した内容になっています。とかく、多くの機能を詰め込むデザインになりがちのところ、非常にシンプルで、かつ、フィージビリティのある提案である点も評価しました。

これからも多くの皆さんが、造園空間

の創造に興味を持っていただくことを期待しております。

■入江 彰昭 委員((公社)日本造園学会理事)

ウェルビーイングや癒しなど精神的な価値、エネルギーや循環など環境的な価値、多世代やつながりなど社会包摂的な価値をテーマとする作品がみられ、“現在”の時代を映したデザインに共感いたしました。

デザインコンセプトのクライテリアには時代認識と地域認識、そして両認識から展開されるストーリー性にあると考えますが、IoTで実現する都市型環境教育施設 Intelligent Green Campus は、自然循環、植物成長や生物の動きが見える化され、実験を通した学びを体験できる技術とデザインが評価されました。新たな技術開発に資する最も独創的・先進的な学会賞にふさわしい作品でした。

■吉野 剛文 委員(全国農業高等学校長協会理事長)

全国農業高等学校長協会理事長賞の作品は、高校生とは思えないほど精度が高く、コンセプトを具現化し、建築の学び



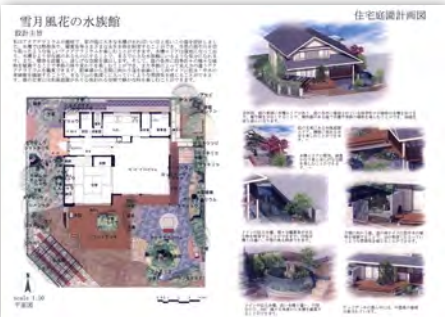
赤岩 咲希 群馬県立安中総合学園高等学校



浅川 華香 山梨県立農林高等学校



石川 桃湖 山梨県立農林高等学校



黒瀬 大悟 山口県立宇部西高等学校



豊田 宗平 三重県立四日市農芸高等学校



酒井 真保 愛知県立愛知総合工科高等学校



高橋 柚衣 群馬県立藤岡北高等学校



田中 百萌 静岡県立静岡農業高等学校



山口 彩 滋賀県立八日市南高等学校



前田 めい菜 三重県立四日市農芸高等学校



田村 楓真 埼玉県立秩父農工科学高等学校



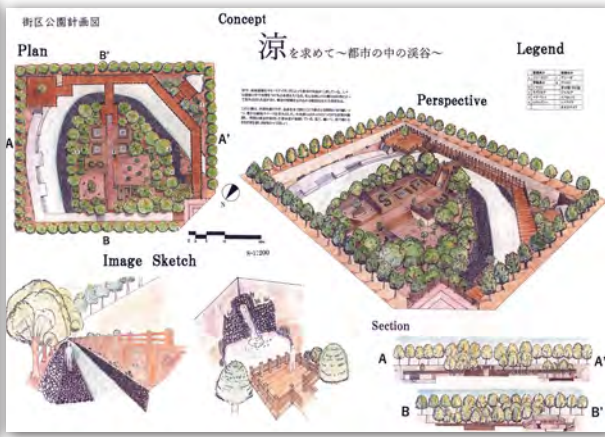
丹羽 旺暉 香川県立石田高等学校



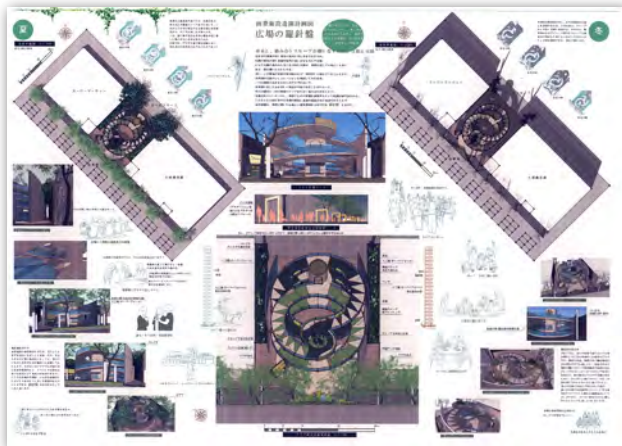
(公社) 日本造園学会会長賞
岩元 晟洋 長崎大学



(一社) 日本造園建設業協会会長賞
坂元 健太 京都府立農芸高等学校



(一社) ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞
横田 将也 明治大学



全国農業高等学校長協会理事長賞
植田 太陽 静岡県立天竜高等学校



緑化フェア「みどりの広場」プラン賞
櫻井 心捺 神奈川県立相原高等学校



第50回記念特別賞
杉本 りの 北海道岩見沢農業高等学校

を大いに発揮した素晴らしいデザインとなっています。

徒然草の一節を用い、夏至と冬至の日照をシミュレーションして、屋外では過ごしにくい季節も快適な空間となるようにデザインされています。また、様々な世代の施設利用者の声がちりばめられていて、楽しんでいる姿が想像できます。方位による太陽光を駆使した設計が、商業施設への集客を高めるためのビジネスマネジメントのまさに「羅針盤」となっているととても優れた作品です。

■井野 貴文 委員 ((一社) ランドスケープコンサルタンツ協会技術委員)

応募作品は学生らしい楽しさが伝わる



川野 琳央 神奈川県立相原高等学校

作品が多く、特に個人庭園、実習作品、緑化フェアプラン部門では、実務者では思いつかない独創的な作品が多い印象でした。街区公園や商業施設部門は敷地周辺の条件が詳細に設定されていないため、自ら条件設定する必要があり難易度が高かったことで一般的な提案が多くなったかと思います。

その中でも難しい街区公園を果敢に提案した作品をCLA会長賞に選ばせていただきました。受賞作品は気候変動による温暖化する市街地に、地形を大胆に削り小さなクールスポットをつくる明快なコンセプトをもった提案でした。あえて小さな街区公園で大胆な地形操作する意義を考えさせられる作品だと思いました。

■柳野 良明 委員 ((公財) 都市緑化機構専務理事)

緑化フェア「みどりの広場」プラン部門に、全国から257点もの作品をご応募いただき御礼申し上げます。2024年10月19日から全国都市緑化かわさきフェアが川崎市富士見公園などで開催されますが、川崎市の歴史文化や自然を踏まえた素晴らしい作品が多く見ら

れました。

受賞された櫻井心捺さんの作品「川崎の藍染め」は、川崎市の伝統工芸の一つでもある藍染めをテーマにしたものであり、藍染めされた布を中心に据え、青系の花で飾るというユニークなプランです。なかなか気が付かない伝統工芸に着目した点も素晴らしいのですが、限られた紙面でイメージを表現する力にも敬服したところです。

川崎市の伝統工芸を再認識する話題性のある作品となり、フェア会場を大いに盛り上げてくれるものと期待します。

■伊藤 幸男 委員 ((一社) 日本造園建設業協会技術委員長)

今年度の日本造園建設業協会会長賞は、高校生の実習作品部門の中から坂元健太さんグループの作品を選びました。環境問題が注目を集めるなかで竹廃材の利用に着目したことに加え、そこにネコの動きに発想を得た「あそび」の要素を加えたデザインづくりは、造園をするうえでとても大事なことです。

また、同様に世の中で話題となっている社会課題を良く感じ取り、ネイチャー

ポジティブの考えをデザインのなかに表現しようとしたこと、また、それを具現化するために、丁寧な材料選択や現場施工を行ったことが表現できている資料づくりも評価が高いポイントでした。

■正本 大 委員 ((一社) 日本造園建設業協会事業委員長)

記念すべき第50回を迎える本コンクールでは、過去最高数の応募をいただきました。アフターコロナの時代を反映してか、商業施設や公園部門ではこれまでとは違った着眼点に基づいた作品も多くみられました。皆さんのアイディアを活かした施設が創られていったらと、審査をしながら心躍る時間を過ごさせていただきました。

これからも造園空間の設計を行う機会がある場合、与条件や周辺環境、時代のニーズ、そしてその地にまつわる歴史や風土もよく調べ、着手していくと作品により深みが増していきます。これからの活躍を祈念いたします。



佐藤 恵 静岡県立科学技術高等学校



下山 いろは 静岡県立静岡農業高等学校



高山 珠里 山梨県立農林高等学校



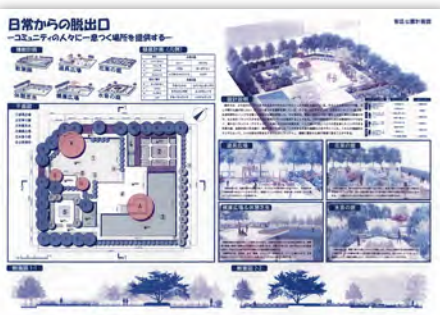
久保 光生 E & G アカデミー



中尾 朋子 E & G アカデミー



落合 心之介 前橋工科大学



CAI YANNING 長崎大学



原 かえで 西日本短期大学

新潟県
西蒲区
わらアート祭とからし巻きの魅力

西蒲区の風土を感じる



わらアート ライオンとゴリラ



政令市新潟は8つの行政区が設けられていますが、今回は海、山、平野に抱かれた自然豊かな西蒲区を紹介します。



西蒲区は佐渡弥彦米山国定公園に指定されて、角田山を有する農業の盛んな地域です。

角田山の麓に上堰潟公園という広大な都市公園があり、11haの湖面、芝生地が整備され、春は桜・菜の花、夏はひまわり、秋はコスモスなどが楽しめ、市民の憩いの場として四季を通して賑わっております。その中でも一番の人気は

8月末から10月まで開催される「わらアートまつり」です。

わらアートは、2006年に西蒲区で発祥し、わらを材料に高さ幅ともに3～4m位の大きなユニークな造形物で、東京の武蔵野美術大学の学生の協力もいただき作成しています。

それを目当てに家族連れなどたくさんの人々が訪れ、土日祝日には市場が来店され地域の特産品が味わえます。

毎年10月上旬には、新米祭りが開催され新潟コシヒカリを味わうことができます。

◆
あともう一つ忘れてはいけないものとして「切り干し大根のからし巻」があげられます。

新潟コシヒカリほど地名度はありませんが、西蒲区のソウルフードと言っても過言ではない特産品です。

作り方は、簡単でそれぞれの家庭独自のレシピがありますが、代表的な作り方は大根を2～3mmの厚さに切ったものと大根の緑を切って、紐状にしたものを1週間ほど干します。

その後干した大根を水で戻し、練りからしを中に入れて巻き込み、紐状にした大根で縛ります。平らに広げ、みりん、醤油、日本酒のたれに漬け込み2～3日後にはピリッと辛いからし巻きの出来上がりです。

晩秋から冬にかけて作られることが多くご飯のおかずとしてではもちろんのこと、日本酒のあてとしても最高です。



切り干し大根のからし巻き

砂丘地大根の産地でもあるこの地域の6次産業化を進めていくうえでも重要な品目となっています。

ネットでも購入できますのでご興味のある方は、ぜひお試しください。

新潟県支部 梨本 正則（石水造園株）

造園施工管理技術検定 受験資格など改訂 1級は実務経験問わず「19歳以上」で受験可能に

技術者制度の見直し方針を踏まえ、施工技術検定の改正が行われ、造園施工管理技術検定は、（一財）全国建設研修センターが令和6年度から実施する。

今回の改正で、1級の第一次検定は実務経験年数を問わず、19歳以上（受験年度末時点での年齢）であれば誰でも受

検できるようになった。

令和6年度の1級造園施工管理技術検定の試験日は第一次検定9月1日(日)、第二次検定12月1日(日)で、申込用紙は4月9日から販売され、申込締切は5月21日までとなっている。（詳細は「日造協ニュース」2月号に掲載）

- 8(金)・街路樹剪定士認定委員会（試験部会）
・日本造園修景協会理事会
13(木)・造園領域発展戦略委員会・戦略立案部会合同部会
15(金)・街路樹剪定士認定委員会
19(火)・財政・運営部会
・全国建設研修センター評議員会
・国際花と緑の博覧会記念協会 理事会
25(月)・建設業適正取引推進機構評議員会
・国際園芸博覧会協会第4回分科会
27(水)・運営会議
28(木)・総支部長等会議
・第2回通常理事会

- 【4月】
2(火)・広報活動部会
4(木)・植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）
8(月)・資格制度委員会
12(金)・造園技術フォーラム部会
15(月)・建専連第一回企画委員会
17(水)・安全部会
19(金)・植栽基盤診断士認定委員会

委員会等の活動

- 全国造園デザインコンクール等推進部会
2/1 日造協HPにて第50回全国造園デザインコンクール審査結果を公開
●安全部会
2/2 「(仮称) 樹上での安全作業の手引き」の発行に向け建災防との編集会議
●広報活動部会
2/6 日造協ニュース2月号の内容確認、2024年6月までの記事構成について審議
●財政・運営部会

- 2/7 令和6年度事業計画及び収支予算案について審議
●登録造園基幹技能者講習委員会（試験委員会）
2/8 今年度開催分の採点と来年度の開催計画について審議
●全国造園デザインコンクール表彰式
2/10 東京グリーンパレスにて実施
●街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会
2/14 街路樹剪定士の2月までの実施分と指導員研修会の合否判定。緑地樹木剪定士の冬期開催分の合否判定
●登録造園基幹技能者講習委員会
2/15 今年度の合否判定と来年度の開催計画について審議
●地域リーダーズ勉強会
2/15 沖縄で実施
●技術委員会（全国）
2/20～22 グリーンインフラ産業展に出展し、資格制度、全国造園デザインコンクールをPR
2/21 グリーンインフラ産業展の視察、委員会を行い、産業展の交流会に参加
●技能五輪等部会
2/24～25 今後の部会体制について検討、グランプリに開催協力
●植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）・ハンドブック編集委員会
2/27 植栽基盤整備ハンドブック等の改訂について検討
●女性活躍推進部会
2/29 令和5年度活動報告と令和6年度活動計画について審議
●安全部会 建災防との編集会議
3/6 「(仮称) 樹上での安全作業の手引き」の発行に向け建災防と編集会議

【造園用フルハーネスの購入方法】

造園の作業に適した「造園用フルハーネス」を会員特別価格でご購入希望の方はURL（<http://shop.kousinen.com/>）よりお申込ください。



編集後記 本号で600号、編集後記は委員会メンバーで順番に書いているのですが、偶然500号（平成27年11月号）の時も自分でした。その順番と100号以上も携われている事に感謝です。引き続き新鮮で皆様に必要な情報発信をして参ります！



園芸療法を観光スポットに

本業の造園を営む私のもうひとつの仕事は、自社の敷地（畑地）を利用して「キノコ栽培」を行っていることです。

きっかけは、敷地（畑地）が有効活用できていなかったことと本業で廃棄物としてでる樹木の廃材や自社の敷地の大きな木の利活用としてキノコ栽培をしてみて、よい循環が生まれればいいなと思ったのが始まりです。◆

まず伐採した落葉樹に菌を打ち込み露地栽培から試みました。失敗もありましたが毎年続けることでコツやポイントをつかみうまくできるようになりました。何事も実践ありきです！

そして周年で栽培ができればなと思い、思い切って森の中にキノコ用のハウスを建設し、菌床きのこや原木しいたけを育てています。



土日にはキノコ狩りを催し写真を撮りながら好きなキノコを収穫したり出張イベントに参加して物販はもちろん、きのこ狩りのアピールや美味しい食べ方などを披露しています。いちご狩りならぬキノコ狩りです。

お客様には樹木が生い茂る自然に近い場所で「狩る」という行為をしていただき充足感や満足感を感じてもらい、キノコをその場で試食していただいたりもしました。

大木に囲まれフィトンチッドを浴びながら



キノコ用ハウス



その場で試食④ 採れたてのキノコ④

季節に合った旬のキノコを1年通して収穫できるシステムです。



キノコ自然栽培は、水・空気（酸素）・適度な光・温度・湿度を調整しキノコにストレスを与えずに周りの自然環境のチカラも利用し、キノコ本来の生命力を最大限に引き出して、よりよいものを作りたいと思っています。

また、自動灌水システムを使用しハウス栽培なので天候に左右される露地栽培よりも安定的な生産を図ることも可能です。



緑の環境改善や駐車スペースの整備もこれからなので順々に行いながら事業を展開していきたいと思っています。

また、栽培後の廃棄物となる廃菌床や原木を資源の利活用として促進することで堆肥として循環させ畑に混ぜることで自然に還り、土が豊かになります。エシカル、循環サイクルとして農業の分野の取り組みにもいかすことができるように頑張りたいです。

事務局の動き

- 【3月】
3(日)・AIPHスプリングミーティング～7日まで
4(月)・日本公園緑地協会 国際委員会

- ・造園・環境緑化産業振興会 運営会議
・事業委員会（全国）

- 5(火)・広報活動部会
6(水)・建災防との意見交換
7(木)・技術・技能・調査部会

富山県支部
西野美保
西野進樹園株

